

第4回 「高校生のための学びの基礎診断」に関する有識者会議について

2021年3月19日に高校生のための学びの基礎診断に関する有識者会議が開催された。10:00から12:00までの予定で、文部科学省5F5会議室で行われた。コロナウイルス感染拡大防止で傍聴者は認められず、WEB会議方式で行われてライブ配信された。今回は岡本委員、長塚委員、萩原委員、前川委員が欠席であった。

今回の議題は以下の通りである。

1. 今後の取組み状況について
2. その他

まず資料1に基づいて、認定基準・手続等に関する規程の改訂（案）について説明があった。主な改訂内容は以下の通りである。

- 学習評価の考え方が国として示されたので、それに準拠した出題とすること
- 英語の「話す」技能測定に関する弾力的運用を2024年度まで延長すること
- 結果提供は集団準拠ではなく、目標準拠を標準とすること
- 試験後の検証体制を構築すること
- 指摘事項を速やかに改善すること
- 変更届はその3か月前に提出すること

これに関する委員の質疑応答の概要は以下の通りである。

竹内委員：「話す」技能測定の弾力的運用延長について理解はできるが、先延ばしの危惧が残る。整備を進めるようなニュアンスを入れた方がよい。

藤森委員：変更届の扱いについて、3か月をきった場合でも対応できるよう「原則として」という表記を加えれば、弾力的運用が可能になるのではないか。

中村委員：「話す」技能の測定を大規模で活用するにはCBTが望まれる。引き続き開発をお願いしたい。高校側のネットワーク環境など受け入れ側の準備が十分でない状況であり、弾力的運用の延長は現実的な対応だと思う。

荒瀬委員：CBTの実現は簡単ではないので、地道な開発をお願いしたい。最終的な文案は座長一任でよい。

次に、斉藤参事官補佐より資料2に基づいて説明があった。

令和元年度に認定ツールを活用した91校に対しアンケート調査を行い、65校から回答を得た。現状としては3教科セットの活用が進み、教科によってその活用状況は異なる。この調査結果を踏まえ、今後はさらなる普及促進のためにモデル事例を創出・周知を行っていく。

これに関する委員の質疑応答の概要は以下の通りである。

藤森委員：「授業の代替」という表現があったが、授業での活用ではなく単なる負担の軽減のためというマイナスイメージがあるため、表現を改善すべき。また、前向きに取り組む現場には、例えば奨励金のようなインセンティブを与えてはどうか。それから、受験判定に傾斜していくこともあるので、それぞれの教科にまたがる力が分析できるように改善することが求められる。

荒瀬委員：事業者の皆さんから結果の返し方を考えていくとともに、高校側の活用の仕方を考えることが必要である。

清水委員：アンケート結果は表ではなく、グラフにして教科のコントラストを見たい。結果を現場へフィードバックするときに、わかりやすくビジュアルで発信する方がよい。また、個別の高校の動きだけでなく、教育委員会レベルの実態の動きも知りたい。

中村委員：各学校だけで改善を進めるのは難しく、好事例を提示するだけではいけない。同じ課題を持つもの同士で話し合えるプラットフォームやネットワークができれば、改善に資するのではないか。

荒瀬委員：SSH校でも近畿・北陸で評価方法や指導方法を研究する例があり、学校間・教員間でそのような場を作ることは素晴らしい。

田村委員：学校によりいろんな状況があり、実態の把握・共有に意味がある。事業者にも少しずつ改善してもらいたい。コミュニケーションの場で知恵の共有が行われれば、内発的な改善につながる。

清水委員：教科によって違う色があることに注視する必要がある。例えば、「思考力・判断力・表現力の測定」を選択理由にしたのは国語だけが高い。数学や英語は「知識・技能」に焦点が当たっている。全体の設計の中でどう位置づけていくかが今後の課題だと思う。

田村委員：基礎学力をどう捉えるかその定義に関わる。現状は、基礎学力を測るよりも進路実現との関連で使われることが多いのではないか。基礎学力を測るためにどういうものが望まれているのかを調査するのも一つの方向性ではないか。

荒瀬委員：基礎学力は「知識・技能」と考えられていることが多い。思考・判断・表現の基礎は何か、汎用的能力とは何かという議論が進んでいない。この基礎診断がそのきっかけになればよい。

藤森委員：汎用性といってもいろいろある。中高生では各分野の固有性をとらえた上でそれを貫くものは何かという眼差しが重要である。現状把握だけでなく、このテストが福音になるという前向きな発信が必要だ。

本会議は今回で本年度最後の会議となった。塩川参事官、荒瀬主査より挨拶があり、予定より45分ほど早く閉会となった。